



ピクタインダクン

(おきみがりにぼし)

第 29 号

発行日 2021年3月10日

発行人 矢代 しず

秋田市御野操7-1-29-305

声

眠れぬ夜

ほの白い窓外から

ぼくを呼ぶ

透明な声がきこえてくる

どことなくなつかしい声

踊る波のリズムで

雪のカーテンをゆらしながら

近づいてくる

やがて 心の池のおもてに

投影される まぶしい

ぼくたちの夏

美しい紋様を描いて

浮かびあがっては消えていく

赤く熟れた声の果実

光

夜

沈黙のなかに
母を想わせる

なだらかな

曲線の

稜線が起ちあがる

天^{そら}から

きらめく

螺鈿の星の

かすかな息づかいが
もれてくる

暗やみに描かれた

光は

獣や鳥の

波立つ心を
しずめている

早朝

大きな翳は

ほぐれて

地に沈んでいった

光は

山脈を

やさしい色に縁どり

ふくよかに色づかせる

光よ！

風をみた

緋色の風をみた

朝

海辺で風をみた

細長い突堤のうえの

白い鷗にささやいている

風をみた

昼

寺の境内で風をみた

梅の木の小枝のさきの

かたい芽に起きよと話しかけている

風をみた

夕方

西の空に風をみた

わたしの詩心を呼びおこす

光の衣をまとった

水 6

空が

にわか

に割れて

閉じ込められていた

感情が一気に吐きでる

激しさで

水の花びらが零れはじめた

屋根に

道路に

並木に

水面には

かすかな水の記憶を抱いた

白い花びらが

次々と舞いおり

溶けて

透明になつて消えていく

冬は

洪水のように押しよせ

市中まちに浸みわたり

重く

のしかかる

やがて

雪の白の冷たさが

戸外のすべての顔をつつみ込み

表情を見えなくする

音も

色彩も

冬に呑みこまれて

扁平な世界に

突然

白鳥が

鋭角的なかたちの編隊を組み

頭上を横切った

空に張った

乳白色の弦を

かき鳴らすほどの

甲高い

しわがれた声音を残して

遠く

高く

視界から

遠ざかっていった

そして

目のまえは

一面の

白布の

沈黙

煙突

赤い屋根の家の煙突は 何をみているのだろう

風が笛吹く小高い丘をみている

小高い丘には何があるのだろう

花の香る樹の木陰で春をうたう人がいる

碧い空に浮くクジラが夏をおよいでいる

黄葉の蝶が舞い落ちて晩秋をつけている

雪の言葉束ねて冬を活ける少女がいる

赤い屋根の家の煙突は 夜 何をみるのだろう

宙にきらめく灯りのさやかな眼をみつめつづけている

赤い屋根の家の煙突には みしらぬ風景を語る風の便りがとどく

高圧電線

空たかく

静寂を積み上げたような鉄塔の

高圧電線は

東西に

線をひく

電線は

白い季節のトンネルを抜けた

肩を寄せあう集落のうえを

咲きはじめた花々を眺めながら

走っていく

煉瓦色の屋根のうえに

ガラスをみた

陽気な光が満ちている

三角の器のなかで

六羽のガラスが

扇形にひらいた尾羽に

光あみをしている

その光景に

ゆるる風の波に身をまかせたら――

電線は

はるかな光の歌にのり

まどろんでいた

ここはどこだろう

まるい景色がみえる

ミルク色の陽

春のやさしさできらめいている

風がわたる

あかるい空間で

光は蝶のよう

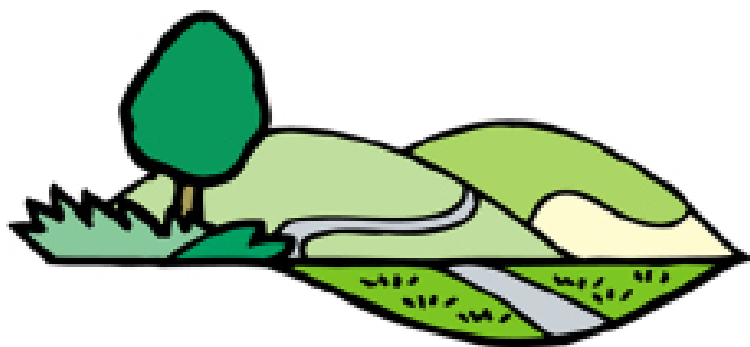
高圧電線は

蒼い風が

かたわらを通過する

ゆるやかに稜線をひいた山に

消えていった



①

少し走ろうか
と娘

先頭はわたし
心地よい速さで
スタスタ ホイサツサ

娘が急に立ち止まった

どうしたの？

だって歩くのより
遅いんだもん……

ガガ ガーン！

②

都民ファースト
といったのは
小池百合子知事

ジジババファースト
といったのは
ワクチン接種奨励者

③

病院で検温
受付係が53・3℃です

うっそ
わたし 高熱人間？

35・3℃でした

④

起床の楽しみ

今日もいっぱい食べられるぞ！

朝の楽しみは

朝ごはん

10時の楽しみは

あま〜い カステラ

昼の楽しみは

昼ごはん

3時の楽しみは

ほろにが〜い ビターチョコ

夜の楽しみは

腹いっぱいなの夕ごはん

あ〜

おいしかった

おやすみなさい！

⑤

電話中に

ピ〜ポ〜 ピ〜ポ〜

救急車のサイレン

近いけど

どこの家かしら？

ピンポーン ピンポーン

とチャイム音

えっ？ ウチ？

ちわー

蕎麦屋です

お待ちどおさま！

【ご案内】

第八回 「ピッタの会」 勉強会

講師に見上司氏をお迎えし、左記の通り勉強会を開催いたします。演題は、「定型、歌と詩と小説と」（仮題）です。質問コーナーを設ける予定です。ご参加をお待ちしております。

尚、コロナ対策としてマスクの着用、飲み物は各自ご用意ください。

日時 五月二十三日（日）

時間 午後一時～三時半 無料

場所 あきた文学資料館

申込 参加希望者は、五月十五日（土）までに、

矢代レイにご連絡ください。

なお、資料準備のため、必ずお申し込みください。

☎090・1935・1180

【あしがき】

コロナウイルスの感染収束の切り札とされるワクチン接種が2月に始まった。厚生省は副作用（副反応とも）のリスクより得られる効果の方が大きいと説明するが、未知のウイルスとの戦いゆえ、収束を測る試金石となるかは不透明である。

そんな中、4月には65歳以上の高齢者の接種もスタートする。クワバラクワバラ……。

*

5月の「ピッタの会」の講師は見上司氏。前回は機器の不具合があり、リベンジでもある。熱意を参加者とシェアしたい。

コロナ禍のもと、無事に開催できることを願っている。多くの参加を心待ちにしています。

